



平成25年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年10月26日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 帝国ホテル

コード番号 9708 URL <http://www.imperialhotel.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 小林哲也

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部長

(氏名) 宮新朋明

四半期報告書提出予定日 平成24年11月9日

配当支払開始予定日

TEL 03-3504-1111

平成24年12月4日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第2四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第2四半期	23,705	11.2	781	720.1	862	400.8	538	—
24年3月期第2四半期	21,318	△12.8	95	△86.9	172	△79.0	△609	—

(注) 包括利益 25年3月期第2四半期 525百万円 (—%) 24年3月期第2四半期 △613百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第2四半期	18.14	—
24年3月期第2四半期	△20.53	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第2四半期	62,022	44,507	71.8
24年3月期	62,590	44,337	70.8

(参考) 自己資本 25年3月期第2四半期 44,507百万円 24年3月期 44,337百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	11.00	—	12.00	23.00
25年3月期	—	11.00	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	12.00	23.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年 3月期の連結業績予想(平成24年 4月 1日～平成25年 3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	51,900	6.6	3,200	37.7	3,400	33.5	2,100	631.3	70.80

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 ―社 （社名） 、 除外 ―社 （社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 ： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 ： 有
- ② ①以外の会計方針の変更 ： 無
- ③ 会計上の見積りの変更 ： 有
- ④ 修正再表示 ： 無

(注)「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第10条の5に該当するものであります。詳細は、四半期決算短信（添付資料）3ページ「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

25年3月期2Q	29,700,000 株	24年3月期	29,700,000 株
25年3月期2Q	37,862 株	24年3月期	37,862 株
25年3月期2Q	29,662,138 株	24年3月期2Q	29,662,138 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続きの対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続きは終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている将来に関する記述は当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）3ページ「1. 当四半期の連結業績に関する定性的情報（3）連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 継続企業の前提に関する注記	9
(5) セグメント情報	9
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10

1. 当四半期の連結業績に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の復興需要等に支えられ、緩やかながら回復基調となりましたが、欧州債務危機による世界景気の減速感が広がるなど、厳しい状況が続きました。

ホテル業界におきましても、日本人を中心とした宿泊や企業の宴会利用は好調に推移いたしました。また、円高や海外経済の減速に加え、緊迫する国際情勢の影響もあり、訪日外国人客数が本格的回復には至らず、さらに、既存大型ホテルのリニューアルなどによる販売競争激化などもあり、厳しい経営環境が継続いたしました。

このような状況のもと、当社グループといたしましては、震災と原子力災害の影響による大きな難局を乗り越えた経験を生かし、経営の原動力である「帝国ホテルの現場力」と120年の歴史と伝統で培ったブランド力を最大限発揮し、集客と売上の向上に全力を注いでまいりました。オペラとディナーを組み合わせた「ジ・インペリアル オペラ」や京都祇園の芸舞妓と東京新橋の芸者が一堂に会す「東西おどり」など伝統的、文化的イベントの企画販売やハワイの名門ホテル『ハレクラニ』との共同企画「ハレクラニフェア」を開催し、好評を博しました。また、独創的かつ上質な演出を追求した婚礼新商品の発表などの商品力向上と販売促進に努めるとともに、顧客会員向け各種諸施策を積極的に展開し、さらなる顧客基盤の拡充に向け邁進してまいりました。

設備面におきましても、館内に高速かつ安全性の高い通信環境を整備し、宿泊客等の利便性向上と競争力の強化を図ってまいりました。

一方、経費面におきましては、業務の効率化ならびに合理性を追求した経費執行を継続し、収益の向上にグループ一丸となって鋭意努力してまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は前年同期比11.2%増の23,705百万円となり、営業利益は前年同期比720.1%増の781百万円、経常利益は前年同期比400.8%増の862百万円、四半期純利益は538百万円（前年同期は四半期純損失609百万円）となりました。

セグメントの業績におきましては、ホテル事業の売上高は前年同期比12.9%増の21,927百万円、営業利益は826百万円（前年同期は営業損失155百万円）となり、不動産賃貸事業の売上高は前年同期比6.0%減の1,788百万円、営業利益は前年同期比12.4%減の912百万円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

総資産は、前連結会計年度末と比べて0.9%減少し、62,022百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べて5.2%減少し28,028百万円となりました。これは有価証券などが増加し、一方で、現金及び預金や繰延税金資産などが減少したことによるものであります。固定資産は、前連結会計年度末に比べて3.0%増加し33,994百万円となりました。これは投資有価証券などが増加し、一方で、減価償却により有形固定資産が減少したことなどによるものであります。

流動負債は、前連結会計年度末に比べて8.0%減少し6,403百万円となりました。これは買掛金の減少などによるものであります。固定負債は、前連結会計年度末に比べて1.6%減少し11,111百万円となりました。これは、退職給付引当金の減少などによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べて、0.4%増加し44,507百万円となりました。これは四半期純利益の計上による増加や配当金の支払などによるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

今後の見通しにつきましては、先行き不透明な欧州債務危機や新興国の成長鈍化による海外経済の減速に加え、近隣国との関係悪化による影響の深刻化が懸念されるなど、国内景気はなお一層予断を許さない状況であります。

ホテル業界におきましても、不安定な国際情勢や円高の長期化を背景とした訪日外国人客数の回復の遅れや企業収益の減少に伴う法人需要の低迷など、より厳しい経営環境が継続するものと予想されます。

このような環境のもと、当社グループといたしましては、来年 90 周年を迎えるホテル内ショッピング施設として誕生した『帝国ホテルアーケード』、開業 80 周年となる国内初の本格的な山岳観光ホテル『上高地帝国ホテル』等の各種記念催事など話題性のある企画や商品開発に努めてまいります。また、9 月に発表した婚礼新商品の本格販売や 10 月にオープンした『東京駅セントラルストリート』内のギフトショップにおける販売促進の強化など当社のブランド力と商品力を最大限に活用した営業活動を展開してまいります。さらに、顧客会員向け諸施策を引続き推進し、グループ一丸となって集客と売上げの向上に全力を注いでまいります。

一方、経費面におきましては、諸経費の削減や業務の効率化に努め、収益の向上を目指しなお一層の経営努力を続けてまいります。

平成 24 年 5 月 11 日に発表いたしました通期の業績予想につきましては、現時点において変更はありません。今後、何らかの変化がある場合には適切に開示してまいります。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社は、法人税法の改正に伴い、第 1 四半期連結会計期間より、平成 24 年 4 月 1 日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

これによる当第 2 四半期連結累計期間の損益に与える影響額は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	22,527	20,638
売掛金	3,258	3,009
有価証券	2,095	2,896
貯蔵品	410	417
繰延税金資産	738	500
その他	562	580
貸倒引当金	△14	△14
流動資産合計	29,579	28,028
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	17,704	17,044
その他（純額）	4,584	4,605
有形固定資産合計	22,288	21,649
無形固定資産	1,221	1,177
投資その他の資産	9,500	11,166
固定資産合計	33,010	33,994
資産合計	62,590	62,022
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,203	969
未払法人税等	100	40
未払費用	2,309	2,158
前受金	1,049	962
賞与引当金	874	830
役員賞与引当金	29	27
その他	1,395	1,414
流動負債合計	6,962	6,403
固定負債		
退職給付引当金	6,147	6,003
資産除去債務	908	916
長期預り金	3,959	3,952
その他	275	238
固定負債合計	11,290	11,111
負債合計	18,252	17,515

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,485	1,485
資本剰余金	1,378	1,378
利益剰余金	41,352	41,534
自己株式	△89	△89
株主資本合計	44,126	44,308
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	210	198
その他の包括利益累計額合計	210	198
純資産合計	44,337	44,507
負債純資産合計	62,590	62,022

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
四半期連結損益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
売上高	21,318	23,705
材料費	4,613	5,026
販売費及び一般管理費	16,609	17,897
営業利益	95	781
営業外収益		
受取利息	11	14
受取配当金	7	6
持分法による投資利益	12	16
その他	45	43
営業外収益合計	76	80
経常利益	172	862
特別利益		
投資有価証券売却益	3	—
固定資産売却益	—	3
特別利益合計	3	3
特別損失		
退職給付制度改定損	1,193	—
特別損失合計	1,193	—
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△1,018	865
法人税、住民税及び事業税	3	12
法人税等調整額	△413	315
法人税等合計	△409	327
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△609	538
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△609	538

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	△609	538
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△3	△12
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	△0
その他の包括利益合計	△4	△12
四半期包括利益	△613	525
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△613	525
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△1,018	865
減価償却費	1,659	1,321
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△1	0
賞与引当金の増減額(△は減少)	△231	△44
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△16	△1
退職給付引当金の増減額(△は減少)	74	△143
有形固定資産売却損益(△は益)	—	△3
受取利息及び受取配当金	△19	△21
持分法による投資損益(△は益)	△12	△16
売上債権の増減額(△は増加)	△860	249
たな卸資産の増減額(△は増加)	15	△6
仕入債務の増減額(△は減少)	163	△234
長期未払金の増減額(△は減少)	△5	△27
長期預り金の増減額(△は減少)	△88	△6
差入保証金の増減額(△は増加)	△0	1
その他	△339	△317
小計	△680	1,615
利息及び配当金の受取額	76	53
法人税等の支払額	△556	△80
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,160	1,587
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	—	△200
有形固定資産の取得による支出	△510	△519
有形固定資産の売却による収入	—	4
投資有価証券の取得による支出	—	△1,851
その他	△174	△55
投資活動によるキャッシュ・フロー	△685	△2,621
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△414	△355
財務活動によるキャッシュ・フロー	△414	△355
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△2,260	△1,389
現金及び現金同等物の期首残高	23,194	24,526
現金及び現金同等物の四半期末残高	20,933	23,137

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

I 前第2四半期連結累計期間（自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ホテル 事業	不動産 賃貸事業	計		
売 上 高					
外部顧客への売上高	19,425	1,892	21,318	—	21,318
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	10	10	△10	—
計	19,425	1,903	21,328	△10	21,318
セグメント利益 及びセグメント損失(△)	△155	1,041	885	△790	95

(注) 1 セグメント利益又はセグメント損失の調整額は、各報告セグメントに配賦していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間（自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ホテル 事業	不動産 賃貸事業	計		
売 上 高					
外部顧客への売上高	21,927	1,778	23,705	—	23,705
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	10	10	△10	—
計	21,927	1,788	23,716	△10	23,705
セグメント利益	826	912	1,739	△958	781

(注) 1 セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配賦していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更に記載のとおり、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更したため、報告セグメントの減価償却の方法を改正後の法人税法に基づく方法に変更しております。

これによる当第2四半期連結累計期間のセグメント損益に与える影響額は軽微であります。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。